

(様式3)

自己評価結果票 (母屋)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.理念に基づく運営			
1.理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>管理者が理念についての考え方を的確に把握し、理念の主となる『お一人おひとりが生き生きと輝き居心地の良い豊かな暮らしを創る』を念頭に置き、利用者の尊厳を守り、個性を尊重し、また、個々の思いに寄り添える個別ケアの充実、地域との交流を図り、少しずつではあるが実現に向けて取り組んでいる。</p>	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>玄関の壁やスタッフルームなど目に付きやすい場所に理念を掲示し職員全体会議などで唱和し、意識して理念の共有を図り、行動するよう心がけている。</p>	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>理念の実現には家族に“家族ならではの役割”を担って頂くことも必要との思いから地域の行事など一緒に参加して頂いている。また、地域の方にホームに来て頂いた時に利用者の様子や職員の姿を見て頂く事でホームが大事にしていること認知症のことを理解してもらえように取り組んでいる。</p>	
2.地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>ホーム周辺は民家が少ないが、地域との交流を考え低めの竹垣に植木を植え生垣越しに利用者、職員が地域の方々と挨拶を交わしたり、おしゃべりすることを日常的に行っている。近所で畑をされている方から野菜を頂いたり、また、ホーム前の会社の方が畑を耕したり様子を見に来て育て方など指導して下さっている。</p>	
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>地域の行事に参加したり、地域のボランティアクラブの方にホームで歌や踊りなどの催しを提供して頂いている。また、ホーム内のクラブ活動など地域の方に依頼している。</p>	<p>○</p> <p>地域の一員としての積極的な取り組みは、できていない。地域とのネットワーク作りを強化し、利用者、職員が地元の人々との交流が定期的に図れるように努めていきたい。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	今年度の基本方針の中で『地域住民と積極的に交流を図り、福祉に関する専門的知識・技術を提供し信頼関係を構築していく』と掲げている。職員の状況や力が不足しており実現には至っていないが、地域交流委員会を中心に早期に取り組んでいく姿勢を持っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価を受けるにあたって全職員に自己評価の項目を提示し、意見をまとめて作成できるように努めている。その結果を総括的に管理者が評価している。職員に周知し改善すべき項目については会議などで話し合い、質の良いケアの提供と実践を目指している。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の設置が今年度からではあるが、まだ実施できていない。	○	案内状を送付しており12月半ばに第1回運営推進会議を開く予定にしている。話し合った内容や意見について利用者のケアのサービス向上に努めていきたい。
9	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町担当者と行き来する機会が設けることが出来ていない。また、市町とともにサービスの質の向上に取り組めていない。	○	運営推進会議を適時開き、市町担当者とネットワーク作りから始めていきたい。地域で開かれている会議などにも参加する機会を作り市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいきたい。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者と職員は地域の成年後見制度についての研修に参加している。家族(キーパーソン)と必要性を話し合いながら必要な利用者に活用できるよう支援している。また、活用して頂いている。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について勉強会や研修会などで学ぶ機会を設けているが全職員が理解出来ているとは言い切れない。ニュースなどで取り上げられた虐待の報道などについてはミーティングなどで意見交換し話し合っている。また、職員のストレスなどから虐待に繋がらないよう細心の注意を払い防止に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時に重要事項説明書及び契約書に利用者の権利・義務を明示し、入居時に利用者、家族に内容を説明し同意を得ている。さらに、契約時また解約時など不安や疑問点について質問などを尋ね、理解と納得が得られるよう心がけている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>月に一回の福祉相談員の来訪があり、また相談や苦情を積極的に受ける姿勢を持っている。ホーム内に苦情の掲示板を設け外部者が閲覧できるようにしている。職員間で話し合ったり迅速な対応を心がけているが、全ての案件に対して満足にいく対応ができていない。</p>	<p>○</p> <p>リスクマネジメント委員会を中心に苦情や相談を行う側に立ち、誠意ある対応を徹底し迅速な対応を行えるよう職員一人ひとりが認識できるよう努め、案件一つひとつを学習の題材にして学ぶ機会を作っていきたい。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>面会時など必ず管理者、職員が声をかけさせて頂き利用者の近状報告を行っている。また、3ヶ月に1回の広報誌の発行、月毎に日々の記録をコピーし、利用者の暮らしぶりや心身状態などの報告を兼ねてお渡ししている。金銭管理については高額になるものは目的を伝え許可を頂くようにし、領収書を定期的にお渡ししている。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>全体の家族会、個別の家族会を開催して意見や要望をきいている。ホーム内に苦情の掲示板を設け外部者が閲覧できるようにしている。職員間で話し合ったり迅速な対応を心がけているが、全ての案件に対して満足にいく対応ができていない。</p>	<p>○</p> <p>家族が意見、不満、苦情など言いやすい、伝えやすい関係を作ることを心がけ、また、それらについて真摯に受け止め、誠意ある対応を徹底し迅速な対応を行えるよう職員一人ひとりが気づき、認識できるよう努め、案件一つひとつを学習の題材にして学ぶ機会を作っていきたい。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>常に利用者主体のケアサービスが提供できるよう申し送り時やミーティング、カンファレンスなどあらゆる機会を通じて職員と話し合い『質の良いケアの提供』を目指し意見を述べ合い向上を図っている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>日常の活動が活発に行えるように、また利用者の状態や生活の流れを支援するために勤務ローテーションを組み、その日、その日の予定を考慮し必要な支援が提供できるようにフロアリーダーを中心に話し合い</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	隣接するユニット間の異動を行うことがあるが、職員の適正を考慮している。また、クラブ活動や新宅と一緒に行う行事などで見かけていることもあり大きなダメージを与えるは比較的少ない。春に管理者が交代しているが元現場にいた馴染みの職員でもあり利用者も落ち着いて生活している。新職員については利用者と馴染みの関係を築くことは少し時間を要する現状にあるが職員が間に入り関係作りに配慮し対応している。		
5.人材の育成と支援			
19 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	採用時や交流研修など同グループ職員内で行い、また係や、委員会、役割などその職員に必要な研修を受講し、全体ミーティングなどで必ず研修報告会を持ち他の職員にフィードバックしている。人事賃金制度の導入でチャレンジシートや職能要件書を用い人材育成に取り組んでいるが人事賃金制度への認識が浅い職員もおり十分とは言えない。	○	研修委員を中心に研修や勉強会の内容を検討し、職員一人ひとりに必要な研修を見極め、必要な知識、技術の習得ができるようにしていきたい。
20 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者（同グループを含む）と新設事業所の研修会、相互訪問などの活動や交流する機会を持っているが、活発に行えているとは言い切れない。	○	地域の同業者、他のグループホームを訪問して実態を視察し、参考になる事柄を積極的に取り入れるなど情報交換を行っていき、同業者同士のネットワーク作りについても積極的に取り組んでいきたい。
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	休憩時間についてはリフレッシュして業務に就くことも必要と捉えてはいるが、定時、定期的にとれない現状にあり、心身を休めるための休憩はできていない。プライベートでサークル活動に参加している職員については楽しみやストレスの軽減ができるよう公休日や勤務時間については可能な限り参加できるよう配慮している。		
22 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	上期、下期と年に2回チャレンジ目標を設定し自己評価している。目標の結果について、達成度や自己啓発で努力したこと、今後どのように取り組んでいくかなど個人面接を行うと同時に個々の悩みや不安に思っていることなど向き合って話せる時間を作っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>面接時に利用者の不安や求められているサービスなど時間をかけてゆっくり傾聴し安心して利用して頂けるように思いを受け止め対応している。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居の申込時に家族の不安や求められているサービスなど時間をかけてゆっくり傾聴し安心して利用して頂けるように思いを受け止め対応している。</p>	
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>申込時、面接時の様子や情報から利用者にとって一番に必要とされるサービスは何かを見極め、在宅サービスの利用や他の事業所の利用を視野に入れながら初期対応を行っている。</p>	
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>若い職員には日常生活の中で、ほとんどの利用者が経験されている家事全般の軽作業においては、様々な昔ながらの知恵を職員に教えて下さったり料理では煮物の味付け、お漬物の作り方、季節や祭りごとに用意する食べ物や風習など教えて頂き一緒に楽しんでいる。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28 利用者を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に利用者を支えていく関係を築いている	利用者、家族、職員の三者一体のケアを心がけている。年末年始や法事などで自宅に外泊して頂き、利用者の状態を把握される良い機会となっている。また、職員の大変さも理解して下さることでお互いにとって一方的な支援にならないよう対応できている。		
29 利用者との家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの利用者との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用者の誕生日には外食やお誕生日会に参加して頂いている。また面会時には、外出して頂きゆっくり過ごして頂いている。利用者が時々話される普段、面と向かって伝えられないこと(感謝の気持ち、心配事など)の家族への思いなどをさり気なく伝えている。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	どの利用者も今まで生活しておられた家や近所の話がされることが多い。馴染みの場所を訪れて懐かしんで頂きたいがなかなか実行できていない。		
31 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	買い物や散歩、外食など少人数で仲の良い利用者同士が過ごせるように配慮している。孤立しがちな利用者には交流しやすいように職員が仲介役になっている。また、移動の介助など出来る範囲のことを利用者に協力を依頼し世話役をお願いしている。		
32 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	同グループ内に様々な事業所があり、生活されている中で入院により状態が変化された時や家庭の事情などで他施設を希望される時には希望される施設やサービスを紹介させて頂いている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1.一人ひとりの把握				
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者が何を求め、望んでいるか知るために家族から情報を得、ご本人の言葉や行動から推測したりしながら把握に努めている。しかし、利用者がその人らしく暮らすために利用者の生活歴の把握が十分でない。</p>	○	<p>現在センター方式の導入を考えている。利用者が希望する状態を身体機能面、精神面、環境面など多面的に把握し、利用者の持てる能力の評価にも結びつけながら支援することが必要と捉えている。</p>
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居希望時、面接時に利用者、家族から今後のケアに活かすためにも情報を収集している。また、入居に至るまでの様子についてもバックグラウンドに出来るだけ詳しく記載して頂く様をお願いしている。生活歴や趣味、特技などバックグラウンドを大切にしている。生活の中で『その人らしさ』を発揮され主役になれる場面を大切に考えている。</p>		
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>家事全般の軽作業、草花の世話、買い物、地域との交流など、それぞれの場面で出来ること、持てる力を発揮して頂いている。</p>		
2.より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用者、家族から生活歴、個性、要望など聞き、利用者や家族の求めていることを把握できるよう努めている。また、バックグラウンドを大切に考え、アセスメントを行い課題を明らかにし、個性やペースを大切に、生き生きとした暮らしの実現を目指し利用者主体の介護計画を作成するように取り組んでいる。</p>	○	<p>利用者主体の介護計画を立てているが、全職員が『これでいいのか』という思いを常に持ち、気づき、洞察力、観察力を養いアセスメントに基づいた介護計画を立てるよう努めていきたい。</p>
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>日々の申し送りや関わりから気づいたことなど、また入院されたり状態に変化がみられた時はモニタリングしながら必要に応じて介護計画の見直しにつなげているが確実に出来ているとは言えない。</p>	○	<p>月に一回のケアカンファレンス会議の際に、利用者の意向や家族の意見を取り入れ利用者の状態変化に応じて変更し3ヶ月毎の見直しを確実に行っていきたい。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	『誰が、いつ、何を、どのようにして、どう対応した』を記録に残し、情報を共有しケアサービスの向上に努めている。しかし、職員の入れ替わりなどもあり記録について伝えられていないことも多く、また介護計画の見直しに活かしている内容になっているとは言い切れない。	○	記録の研修を受講している職員が勉強会を開いたり、新入職者に個人的に指導しているが満足のものにはなっていない。記録の大切さや必要性を伝え、利用者、家族にとって介護記録はどういう意味を持つのが再認識し話し合いレベルアップを図っていきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	日常的に近隣のスーパーや商店に出かけ必要な物品を選びレジでお金の支払いするなど買い物支援に理解を示され協力を得ている。周辺地域の諸施設から無断で外出されている方の様子や情報を連絡を下さっている。		
41	他のサービスの活用支援 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	利用者、家族の意向や希望を聞き、在宅復帰が可能と判断した時など地域の事業所、同グループ内の事業所と利用者、家族を交えて情報交換し、他のサービスを利用される支援を行っている。		
42	地域包括支援センターとの協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	同グループ内の地域包括支援センター、在宅介護支援センターからの見学など受け入れ利用者の紹介や情報交換など連携を図っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	医療面について不安を抱えている家族も多く、ターミナルについては家族からの意見が出ており、利用者や家族の安心を確保する上からも急変時の対応や支援などの方針を統一し話し合いを行い共有化を図っていきたい。
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	ホームで出来ること出来ないことについてしっかりと見極め重度化や終末期に向けて、また今後の変化に備えて検討していきたい。ターミナルケアの勉強会を必要時に行うのではなく日常的に行いチームでの支援がスムーズに遂行できるように準備していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>利用者が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		
<p>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>			
<p>1.その人らしい暮らしの支援</p>			
<p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	○	<p>待てずに手を出してしまったり良かれと思って次々進めてしまうなど職員本位のペースで急がせてしまうことがある。結果的に利用者の残存能力を奪うことに繋がることを念頭に置き『利用者のペースを尊重する』ことの大切さを話し合っていく。</p>
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	同グループ内の配食サービスで作られた副食を盛り付け、配膳している。汁物は近所の方に頂いた野菜や庭の畑でとれた野菜を使い、調理している。利用者に好みのメニューをリクエストして頂き、月に2回の食事作りと行事食を利用者と一緒に作っている。食後の片付けは当番制とし、ほぼ全員が参加できている。	○	職員と利用者が同じ食卓を囲み同じ食事を楽しむことを必要と捉えている。新宅の方では食事作りを多く取り入れており、利用者にも好評である。母屋の方では料理作りができる方も多く、食事作りを増やしていけるように取り組んでいきたい。
55	利用者の嗜好の支援 利用者が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	行事食などの時にはお酒を出させて頂いたり、飲み物についてはティータイムの時は個々に希望される飲み物を出させて頂いている。おやつは一般的なお菓子を用意したり手作りのお菓子作りを利用者と一緒に作っているが日常的には行っていない。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	入居時ハビリパンツやパットを使用されている利用者には排泄の様子観察を行い排泄リズムを掴み、トイレでの排泄の声かけから行っている。おむつの使用は基本的に取り入れずトイレでの排泄ができることを目標に利用者、家族と話し合いながら個々の状態に合わせたパットやハビリパンツの使用を行っている。自尊心を尊重し羞恥心に配慮する対応を心がけている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望に合わせてゆったりと入浴して頂けるように支援している。毎日入浴を希望される方や就寝前に入浴したい方、気の合う人同士で入浴されたい方など入浴を楽しんで頂いている。ご自分で行えることは奪わないよう不安感や羞恥心、プライバシーに配慮した見守り支援での対応を行っている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	落ち着かれない利用者に事務所や居室で1対1でゆっくりと会話することで落ち着かれることがあり、休息については個別の対応を大切にしている。入居時、眠前薬を服用されている場合は睡眠のリズムを掴み、できるだけ服用しない方向で日中はできるだけアクティビティーやレクリエーションを取り入れ夜間の睡眠が確保できるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	趣味や得意なことなど主役になれる機会や場面をつくり暮らしを楽しめるよう支援している。また、生活の中で役割を持ち『自分を必要としているひとがいる』と感じて頂けるよう、また『誰かの役に立ちたい』という利用者の思いを大切にしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、利用者がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力にに応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にお財布に小遣いを入れて頂きホームで預かっている。自身でお財布を持ち金銭管理をされている方や買い物や外食時はお財布からお金を出して支払いは自分で頂くなど利用者の力や個性に合わせた方法が必要とされる支援を行っている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望を取り入れ、買い物や喫茶店でケーキセットを食べに出かけられたり季節感を味わっていただける様にドライブにも頻繁に出かけている。また、車椅子使用の方にも外出する機会を作っている。	○	散歩がなかなか実施できていない現状にあり、お天気の良い日は殆どの方が散歩に出かけられるように心がけていきたい。下肢筋力を鍛え、外気に触れ自然や季節を肌で感じてもらえるように支援していきたい。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	行きたい所を日常の会話や行動などの観察から、またバックグラウンド、家族からの情報を把握して行きたい所を探り実現できるよう、また、お誕生日や年末年始を中心に家族と外出をして頂く機会を設け支援している。	○	12月半ばに一泊旅行を企画していたが、職員の人数不足などの理由から春先に延期している。安全に万全を期した状態で実行したい。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に利用者自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	リビングに電話を設置し自由に使えるようになっている。耳が聞こえにくい利用者は電話での会話は難しいが手紙は読めるので手紙のやり取りをお願いしたり、絵手紙教室の作品ではがきを書いてもらったりして頂いているが思うようにできていない。	○	日常的に近状報告などお互いが『家族』を身近に感じられる一つの方法として手紙や電話のやり取りをお願いし寂しさを感じないように支援していきたい。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、利用者の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	定期的に面会に訪れ外出を楽しまれたり、他の用事で近くに来られた時など、気軽に立ち寄り下さっている。ホーム内や居室などでゆっくり過ごされることや外出、外食など一緒に出かけられることが増えてきている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員採用時の研修やミーティング、また勉強会を開き『身体拘束』について話し合う機会を持っている。ベッド柵、スピーチロック、無視、行動の規制なども拘束と捉え適切な対応を心がけているが利用者の安全を第一に捉える場面については完璧にできているとは言えない。	○	何が『拘束』になるのかを常に考え、利用者の安全を確保しながら身体拘束・行動制限しない方法を考え、対応していきたい。身体拘束に関する知識をすべての職員が正しく理解できるように話し合っていくことが必要とと思っている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者に閉塞感を与えないように基本的に玄関、居室の施錠はしていない。自由に利用者が庭や畑に出られるように対応している。利用者の安全確保が優先される時など根拠が明白である場合のみ、やむを得ず施錠を行うことがあるが、ほとんど施錠することはない。		
67 利用者の安全確認 利用者のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	リビングには常に職員が位置し、記録など見守りしやすい場所や利用者の傍で行うようにしている。職員間で連携を図り常に利用者の状況を把握できるように安全に配慮しているが無断で外に出られていたことがあり確実にできているとは言えない。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬や洗剤、消毒液など利用者が出入りが比較的少ないスタッフルームや倉庫内の決められた場所に保管している。刃物の取り扱いについては使用後放置したままにせず保管場所へ戻すなど保管、管理の最終確認はスタッフがやっている。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	どんな些細なことでも危険（ヒヤッとしたこと、ハッとしたこと）と感じたものはヒヤリハット報告書に挙げ、リスクマネジメント委員会を中心に大きな事故に繋がらないよう、フローミーティングで話し合い事故防止に努めている。	○	緊急時の対応マニュアルを作成し対応について職員に周知徹底しているが知識、技術、経験などの差があり勉強会や研修会の参加などあらゆる機会を通じて学び全職員が適切な対応を熟知できるようにしていきたい。
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急救命法（心肺蘇生法）の講習会や訓練を最低年1回行うように心がけているが十分とは言えない。また職員全員が緊急時に落ち着いて応急手当ができるまでの訓練は行っていない。	○	いつ、どんな時でも職員全員が応急手当を行えるように勉強会、講習会を開き知識や技術を習得し、急変や事故の発生を常に意識し、的確に対応できるように全体、または個人的にも学ぶ機会を作っていきたい。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホームの300m範囲内に同グループの病院、施設があり緊急時は避難できるようになっている。また、水害など早い段階で災害の恐れを予想できる時には市内の同法人グループの施設へ避難できるようになっている。また、避難時の持ち出し物品をスタッフルームに確保している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている		
74	服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている		
75	便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている		
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肺炎、MRSA、ノロウイルス等)		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者それぞれの生活習慣を大切に家族の写真や思い出の品、お位牌など家族の協力を得て馴染みのある家財道具を持ち込んで頂いている。また、一人で部屋で過ごしたい人に対してはさり気なく見守るなどの確な配慮を心がけている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	清掃時は必ず換気しながら行っている。毎朝、起床時などに居室の窓を開け室内のにおいや空気のおよみがないよう配慮している。また、リビングで過ごされている方が少ない時など、状況に応じて換気を行っている。暑さ、寒さを肌で感じ季節感を感じて頂くためにも室内の気温と外気温との差があり過ぎないように気をつけている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、浴室(脱衣室)、トイレに手すりを設置し安全に利用できるようにしている。洗濯物干しについても低い物干しを用意し残存能力の維持に繋がるよう配慮している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室の表札は自分で選んで頂いたもの、また手芸教室でご自分で作られた表札を使用されるなど個性を活かし、ご自分の居室がきちんと把握できるよう工夫している。また、トイレは馴染みのある漢字で『便所』と表示し場所の間違いや分からない事での混乱を防げるよう工夫している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	前庭に物干し場を作り洗濯物を干したり取り入れたり出来るようにしている。また、畑や花壇もあり、水やりや草引きなど、中庭を含め季節の野菜や花を育てる楽しさや収穫の喜び、嬉しさを味わって頂いている。		

( 部分は第三者評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目 (母屋)		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ 毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/> 大いに増えている <input type="radio"/> 少しずつ増えている <input type="radio"/> あまり増えていない <input type="radio"/> 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/> ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

学習療法、アクアスポーツなどの生活リハビリの実施と個々の趣味や得意とすることへの個別ケアの実施(お琴演奏会、塗り絵、料理、菜園など)

(様式3)

自己評価結果票 (新宅)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.理念に基づく運営			
1.理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>管理者が理念についての考え方を的確に把握し、理念の主となる『お一人おひとりが生き生きと輝き居心地の良い豊かな暮らしを創る』を念頭に置き、利用者の尊厳を守り、個性を尊重し、また、個々の思いに寄り添える個別ケアの充実、地域との交流を図り、少しずつではあるが実現に向けて取り組んでいる。</p>	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>玄関の壁やスタッフルームなど目に付きやすい場所に理念を掲示し職員全体会議などで唱和し、意識して理念の共有を図り、行動するよう心がけている。</p>	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	<p>理念の実現には家族に“家族ならではの役割”を担って頂くことも必要との思いから地域の行事など一緒に参加して頂いている。また、地域の方にホームに来て頂いた時に利用者の様子や職員の姿を見て頂く事でホームが大事にしていること認知症のことを理解してもらえるように取り組んでいる。</p>	
2.地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>ホーム周辺は民家が少ないが、地域との交流を考え低めの竹垣に植木を植え生垣越しに利用者、職員が地域の方々と挨拶を交わしたり、おしゃべりすることを日常的に行っている。近所で畑をされている方から野菜を頂いたり、また、ホーム前の会社の方が畑を耕したり様子を見に来て育て方など指導して下さっている。</p>	
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>地域の行事に参加したり、地域のボランティアクラブの方にホームで歌や踊りなどの催しを提供して頂いている。また、ホーム内のクラブ活動など地域の方に依頼している。</p>	<p>○</p> <p>地域の一員としての積極的な取り組みは、できていない。地域とのネットワーク作りを強化し、利用者、職員が地元の人々との交流が定期的に図れるように努めていきたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	今年度の基本方針の中で『地域住民と積極的に交流を図り、福祉に関する専門的知識・技術を提供し信頼関係を構築していく』と掲げている。職員の状況や力が不足しており実現には至っていないが、地域交流委員会を中心に早期に取り組んでいく姿勢を持っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価を受けるにあたって全職員に自己評価の項目を提示し、意見をまとめて作成できるように努めている。その結果を総括的に管理者が評価している。職員に周知し改善すべき項目については会議などで話し合い、質の良いケアの提供と実践を目指している。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の設置が今年度からではあるが、まだ実施できていない。	○	案内状を送付しており12月半ばに第1回運営推進会議を開く予定にしている。話し合った内容や意見について利用者のケアのサービス向上に努めていきたい。
9	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町担当者と行き来する機会が設けることが出来ていない。また、市町とともにサービスの質の向上に取り組めていない。	○	運営推進会議を適時開き、市町担当者とネットワーク作りから始めていきたい。地域で開かれている会議などにも参加する機会を作り市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいきたい。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者と職員は地域の成年後見制度についての研修に参加している。家族(キーパーソン)と必要性を話し合いながら必要な利用者に活用できるよう支援している。また、活用して頂いている。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について勉強会や研修会などで学ぶ機会を設けているが全職員が理解出来ているとは言い切れない。ニュースなどで取り上げられた虐待の報道などについてはミーティングなどで意見交換し話し合っている。また、職員のストレスなどから虐待に繋がらないよう細心の注意を払い防止に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時に重要事項説明書及び契約書に利用者の権利・義務を明示し、入居時に利用者、家族に内容を説明し同意を得ている。さらに、契約時また解約時など不安や疑問点について質問などを尋ね、理解と納得が得られるよう心がけている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>月に一回の福祉相談員の来訪があり、また相談や苦情を積極的に受ける姿勢を持っている。ホーム内に苦情の掲示板を設け外部者が閲覧できるようにしている。職員間で話し合ったり迅速な対応を心がけているが、全ての案件に対して満足にいく対応ができていない。</p>	<p>○</p> <p>リスクマネジメント委員会を中心に苦情や相談を行う側に立ち、誠意ある対応を徹底し迅速な対応を行えるよう職員一人ひとりが認識できるよう努め、案件一つひとつを学習の題材にして学ぶ機会を作っていきたい。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>面会時など必ず管理者、職員が声をかけさせて頂き利用者の近状報告を行っている。また、3ヶ月に1回の広報誌の発行、月毎に日々の記録をコピーし、利用者の暮らしぶりや心身状態などの報告を兼ねてお渡ししている。金銭管理については高額になるものは目的を伝え許可を頂くようにし、領収書を定期的にお渡ししている。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>全体の家族会、個別の家族会を開催して意見や要望をきいている。ホーム内に苦情の掲示板を設け外部者が閲覧できるようにしている。職員間で話し合ったり迅速な対応を心がけているが、全ての案件に対して満足にいく対応ができていない。</p>	<p>○</p> <p>家族が意見、不満、苦情など言いやすい、伝えやすい関係を作ることを中心に、また、それらについて真摯に受け止め、誠意ある対応を徹底し迅速な対応を行えるよう職員一人ひとりが気づき、認識できるよう努め、案件一つひとつを学習の題材にして学ぶ機会を作っていきたい。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>常に利用者主体のケアサービスが提供できるよう申し送り時やミーティング、カンファレンスなどあらゆる機会を通じて職員と話し合い『質の良いケアの提供』を目指し意見を述べ合い向上を図っている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>日常の活動が活発に行えるように、また利用者の状態や生活の流れを支援するために勤務ローテーションを組み、その日、その日の予定を考慮し必要な支援が提供できるようにフロアリーダーを中心に話し合い</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	隣接するユニット間の異動を行うことがあるが、職員の適正を考慮している。また、クラブ活動や新宅と一緒に行う行事などで見かけていることもあり大きなダメージを与えるは比較的少ない。春に管理者が交代しているが元現場にいた馴染みの職員でもあり利用者も落ち着いて生活している。新職員については利用者と馴染みの関係を築くことは少し時間を要する現状にあるが職員が間に入り関係作りに配慮し対応している。		
5. 人材の育成と支援			
19 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	採用時や交流研修など同グループ職員内で行い、また係や、委員会、役割などその職員に必要な研修を受講し、全体ミーティングなどで必ず研修報告会を持ち他の職員にフィードバックしている。人事賃金制度の導入でチャレンジシートや職能要件書を用い人材育成に取り組んでいるが人事賃金制度への認識が浅い職員もおり十分とは言えない。	○	研修委員を中心に研修や勉強会の内容を検討し、職員一人ひとりに必要な研修を見極め、必要な知識、技術の習得ができるようにしていきたい。
20 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者（同グループを含む）と新設事業所の研修会、相互訪問などの活動や交流する機会を持っているが、活発に行えているとは言い切れない。	○	地域の同業者、他のグループホームを訪問して実態を視察し、参考になる事柄を積極的に取り入れるなど情報交換を行っていき、同業者同士のネットワーク作りについても積極的に取り組んでいきたい。
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	休憩時間についてはリフレッシュして業務に就くことも必要と捉えてはいるが、定時、定期的にとれない現状にあり、心身を休めるための休憩はできていない。プライベートでサークル活動に参加している職員については楽しみやストレスの軽減ができるよう公休日や勤務時間については可能な限り参加できるよう配慮している。		
22 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	上期、下期と年に2回チャレンジ目標を設定し自己評価している。目標の結果について、達成度や自己啓発で努力したこと、今後どのように取り組んでいくかなど個人面接を行うと同時に個々の悩みや不安に思っていることなど向き合って話せる時間を作っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>面接時に利用者の不安や求められているサービスなど時間をかけてゆっくり傾聴し安心して利用して頂けるように思いを受け止め対応している。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居の申込時に家族の不安や求められているサービスなど時間をかけてゆっくり傾聴し安心して利用して頂けるように思いを受け止め対応している。</p>	
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>申込時、面接時の様子や情報から利用者にとって一番に必要とされるサービスは何かを見極め、在宅サービスの利用や他の事業所の利用を視野に入れながら初期対応を行っている。</p>	
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>若い職員には日常生活の中で、ほとんどの利用者が経験されている家事全般の軽作業においては、様々な昔ながらの暮らしの知恵を職員に教えて下さったり料理の味付け、季節や祭りごとに用意する食べ物や風習など教えて頂き一緒に楽しんでいる。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28 利用者を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に利用者を支えていく関係を築いている	利用者、家族、職員の三者一体のケアを心がけている。年末年始や法事などで自宅に外泊して頂いたり、利用者と一緒に寝泊りされるなど利用者の状態を把握される良い機会となっている。また、職員の大変さも理解して下さることでお互いにとって一方的な支援にならないよう対応できている。		
29 利用者との家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの利用者との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用者の誕生日には外食やお誕生日会に参加して頂いている。また、行事などには参加の呼びかけをし、利用者、家族、職員と一緒に楽しめるように支援している。面会時には、利用者が時々話される普段、面と向かって伝えられないこと(感謝の気持ち、心配事など)の家族への思いなどさり気なく伝えている。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	どの利用者も今まで生活しておられた家や近所の話しをされることが多い。ドライブを兼ねて馴染みの場所を訪れて懐かしんで頂けるよう支援できている。		
31 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	買い物や散歩、外食など少人数で仲の良い利用者同士が過ごせるように配慮している。孤立しがちな利用者には交流しやすいように職員が仲介役になっている。また、移動の介助など出来る範囲のことを利用者へ協力を依頼し世話役をお願いしている。また、自らお世話される場面もみられる。		
32 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	同グループ内に様々な事業所があり、生活されている中で入院により状態が変化された時や家庭の事情などで他施設を希望される時には希望される施設やサービスを紹介させて頂いている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1.一人ひとりの把握				
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者が何を求め、望んでいるか知るために家族から情報を得、ご本人の言葉や行動から推測したりしながら把握に努めている。しかし、利用者がその人らしく暮らすために利用者の生活歴の把握が十分でない。</p>	○	<p>現在センター方式の導入を考えている。利用者が希望する状態を身体機能面、精神面、環境面など多面的に把握し、利用者の持てる能力の評価にも結びつけながら支援することが必要と捉えている。</p>
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居希望時、面接時に利用者、家族から今後のケアに活かすためにも情報を収集している。また、入居に至るまでの様子についてもバックグラウンドに出来るだけ詳しく記載して頂く様をお願いしている。生活歴や趣味、特技などバックグラウンドを大切にしている。生活の中で『その人らしさ』を発揮され主役になれる場面を大切に考えている。</p>		
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>家事全般の軽作業、草花の世話、買い物、地域との交流など、それぞれの場面で出来ること、持てる力を発揮して頂いている。</p>		
2.より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用者、家族から生活歴、個性、要望など聞き、利用者や家族の求めていることを把握できるよう努めている。また、バックグラウンドを大切に考え、アセスメントを行い課題を明らかにし、個性やペースを大切に、生き生きとした暮らしの実現を目指し利用者主体の介護計画を作成するように取り組んでいる。</p>	○	<p>利用者主体の介護計画を立てているが、全職員が『これでいいのか』という思いを常に持ち、気づき、洞察力、観察力を養いアセスメントに基づいた介護計画を立てるよう努めていきたい。</p>
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>日々の申し送りや関わりから気づいたことなど、また入院されたり状態に変化がみられた時はモニタリングしながら必要に応じて介護計画の見直しにつなげているが確実に出来ているとは言えない。</p>	○	<p>月に一回のケアカンファレンス会議の際に、利用者の意向や家族の意見を取り入れ利用者の状態変化に応じて変更し3ヶ月毎の見直しを確実に行っていきたい。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	『誰が、いつ、何を、どのようにして、どう対応した』を記録に残し、情報を共有しケアサービスの向上に努めている。しかし、職員の入れ替わりなどもあり記録について伝えられていないことも多く、また介護計画の見直しに活かしている内容になっているとは言い切れない。	○	記録の研修を受講している職員が勉強会を開いたり、新入職者に個人的に指導しているが満足のものにはなっていない。記録の大切さや必要性を伝え、利用者、家族にとって介護記録はどういう意味を持つのが再認識し話し合いレベルアップを図っていきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	日常的に近隣のスーパーや商店に出かけ必要な物品を選びレジでお金の支払いするなど買い物支援に理解を示され協力を得ている。周辺地域の諸施設から無断で外出されている方の様子や情報を連絡を下さっている。		
41	他のサービスの活用支援 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	利用者、家族の意向や希望を聞き、在宅復帰が可能と判断した時など地域の事業所、同グループ内の事業所と利用者、家族を交えて情報交換し、他のサービスを利用される支援を行っている。		
42	地域包括支援センターとの協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	同グループ内の地域包括支援センター、在宅介護支援センターからの見学など受け入れ利用者の紹介や情報交換など連携を図っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者が入居前に利用されていたかかりつけ医をご本人、家族に情報をもらい希望に沿った対応を心がけ協力病院や協力歯科医院を確保できている。また、医療機関の利用については利用者、家族が希望する医療機関で自由に受診できることを説明している。受診が困難な利用者については訪問診療に来てもらっている。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	利用者の認知症状の変化や認知症の進行などが見られた場合、専門医の受診を行い相談できる体制を作っている。		
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	医療連携体制の契約を結んでいる法人内の看護師、近隣の同グループの訪問看護の看護師、往診時の看護師に利用者の状態の変化など相談している。また、必要に応じて利用者の様子を見に来て頂き健康管理のケアについて支援してもらっている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	理事長が病院長であり、また協力病院がホームの母体でもあり担当医に常に利用者の状態を相談しながら早期退院に向けて話し合っている。病棟の看護師とも常に情報交換しお互いに利用者の心身状態を相談し、利用者に適した対応を第一に考え連携を取っている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の対応は主治医の許可があれば協力病院の協力のもと医療連携体制である同法人内看護師が対応する体制にある。ターミナルケアについては家族が希望する意見が出ている。	○	医療面について不安を抱えている家族も多く、ターミナルについては家族からの意見が出ており、利用者や家族の安心を確保する上からも急変時の対応や支援などの方針を統一し話し合いを行い共有化を図っていきたい。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	看護職が在籍していない中での終末期のケアに職員は不安を抱いている。	○	ホームで出来ること出来ないことについてしっかりと見極め重度化や終末期に向けて、また今後の変化に備えて検討していきたい。ターミナルケアの勉強会を必要時に行うのではなく日常的に行いチームでの支援がスムーズに遂行できるように準備していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49 住み替え時の協働によるダメージの防止 利用者が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入退居のダメージについて利用者の環境の変化への不安感に寄り添い移り住むことのダメージを最小限に食い止めるように家族、関係機関、事業所と十分な情報交換を行いながら進め支援している。		
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1.その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	特に排泄面では失敗された時やトイレの声かけについては自尊心を尊重し、羞恥心、プライバシーに配慮した対応を行っている。職員に対する個人情報の漏洩防止については入職時に周知し誓約書にサインをしている。また、個人情報使用に関わる同意書についても利用者(代理人)の同意を得ている。		
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援 利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	訴えがある時は目線を合わせゆったりとした気持ちで傾聴し、思いを受け止め、ゆっくりとわかりやすい対話を行うようにしている。また、理念に掲げている『自己選択・自己決定を尊重し支援する』ことを大切に捉え、利用者の個性や分かる力に合わせた場面を大切にしている。		
52 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	『利用者のペースを尊重する』ことを理念にも挙げ、職員間でしっかり認識できるように話し合っているが場面により業務が優先してしまうことがある。	○	待てずに手を出してしまったり良かれと思って次々進めしてしまうなど職員本位のペースで急がせてしまうことがある。結果的に利用者の残存能力を奪うことに繋がることを念頭に置き『利用者のペースを尊重する』ことの大切さを話し合っていく。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	好みの服や化粧品、アクセサリー、かばんや靴など馴染みのものを持ち込んで頂き、外出時などはいつもと少し違うおしゃれをして頂くなど、おしゃれを楽しんでもらっている。美容については地域の美容院や家族の協力を得て、これまでの行きつけの美容室を利用して頂いている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	同グループ内の配食サービスで作られた副食を盛り付け、配膳している。汁物は近所の方に頂いた野菜や庭の畑でとれた野菜を使い、調理している。利用者に好みのメニューをリクエストして頂き、月に2回の食事作りと行事食を利用者と一緒に作っている。食後の片付けは当番制とし、ほぼ全員が参加できている。	○	職員と利用者が同じ食卓を囲み同じ食事を楽しむことを必要と捉えている。新宅の方では食事作りを多く取り入れており、利用者にも好評である。母屋の方では料理作りができる方も多く、食事作りを増やしていけるように取り組んでいきたい。
55	利用者の嗜好の支援 利用者が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	行事食などの時にはお酒を出させて頂いたり、飲み物についてはティータイムの時は個々に希望される飲み物を出させて頂いている。おやつは一般的なお菓子を用意したり手作りのお菓子作りを利用者と一緒に作っているが日常的には行っていない。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	入居時ハビリパンツやパットを使用されている利用者には排泄の様子観察を行い排泄リズムを掴み、トイレでの排泄の声かけから行っている。おむつの使用は基本的に取り入れずトイレでの排泄ができることを目標に利用者、家族と話し合いながら個々の状態に合わせたパットやハビリパンツの使用を行っている。自尊心を尊重し羞恥心に配慮する対応を心がけている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望に合わせてゆったりと入浴して頂けるように支援している。毎日入浴を希望される方や就寝前に入浴したい方、気の合う人同士で入浴されたい方など入浴を楽しんで頂いている。ご自分で行えることは奪わないよう不安感や羞恥心、プライバシーに配慮した見守り支援での対応を行っている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	落ち着かれない利用者に事務所や居室で1対1でゆっくりと会話することで落ち着かれることがあり、休息については個別の対応を大切にしている。入居時、眠前薬を服用されている場合は睡眠のリズムを掴み、できるだけ服用しない方向で日中はできるだけアクティビティーやレクリエーションを取り入れ夜間の睡眠が確保できるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	趣味や得意なことなど主役になれる機会や場面をつくり暮らしを楽しめるよう支援している。また、生活の中で役割を持ち『自分を必要としているひとがいる』と感じて頂けるよう、また『誰かの役に立ちたい』という利用者の思いを大切にしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、利用者がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に心じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にお財布に小遣いを入れて頂きホームで預かっている。自身でお財布を持ち金銭管理をされている方や買い物や外食時はお財布からお金を出して支払いは自分で頂くなど利用者の力や個性に合わせた方法が必要とされる支援を行っている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望を取り入れ、買い物や喫茶店でケーキセットを食べに出かけられたり季節感を味わっていただける様にドライブにも頻繁に出かけている。また、車椅子使用の方にも外出する機会を作っている。	○	散歩がなかなか実施できていない現状にあり、お天気の良い日は殆どの方が散歩に出かけられるように心がけていきたい。下肢筋力を鍛え、外気に触れ自然や季節を肌で感じてもらえるように支援していきたい。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	行きたい所を日常の会話や行動などの観察から、またバックグラウンド、家族からの情報を把握して行きたい所を探り実現できるよう、また、お誕生日や年末年始を中心に家族と外出をして頂く機会を設け支援している。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に利用者自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	リビングに電話を設置し自由に使えるようになっている。耳が聞こえにくい利用者は電話での会話は難しいが手紙は読めるので手紙のやり取りをお願いしたり、絵手紙教室の作品ではがきを書いてもらったりして頂いているが思うようにできていない。	○	日常的に近状報告などお互いが『家族』を身近に感じられる一つの方法として手紙や電話のやり取りをお願いし寂しさを感じないように支援していきたい。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、利用者の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	定期的に面会に訪れ外出を楽しまれたり、他の用事で近くに来られた時など、気軽に立ち寄って下さっている。ホーム内や居室などでゆっくり過ごされることや外出、外食など一緒に出かけられることが増えてきている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員採用時の研修やミーティング、また勉強会を開き『身体拘束』について話し合う機会を持っている。ベッド柵、スピーチロック、無視、行動の規制なども拘束と捉え適切な対応を心がけているが利用者の安全を第一に捉える場面については完璧にできているとは言えない。	○	何が『拘束』になるのかを常に考え、利用者の安全を確保しながら身体拘束・行動制限しない方法を考え、対応していきたい。身体拘束に関する知識をすべての職員が正しく理解できるように話し合っていくことが必要とと思っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者に閉塞感を与えないように基本的に玄関、居室の施錠はしていない。自由に利用者が庭や畑に出られるように対応している。利用者の安全確保が優先される時など根拠が明白である場合のみ、やむを得ず施錠を行うことがあるが、ほとんど施錠することはない。		
67 利用者の安全確認 利用者のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	リビングには常に職員が位置し、記録など見守りしやすい場所や利用者の傍で行うようにしている。職員間で連携を図り常に利用者の状況を把握できるように安全に配慮しているが無断で外に出られていたことがあり確実にできているとは言えない。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬や洗剤、消毒液など利用者が出入りが比較的少ないスタッフルームや倉庫内の決められた場所に保管している。刃物の取り扱いについては使用後放置したままにせず保管場所へ戻すなど保管、管理の最終確認はスタッフが行っている。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	どんな些細なことでも危険（ヒヤッとしたこと、ハッとしたこと）と感じたものはヒヤリハット報告書に挙げ、リスクマネジメント委員会を中心に大きな事故に繋がらないよう、フローミーティングで話し合い事故防止に努めている。	○	緊急時の対応マニュアルを作成し対応について職員に周知徹底しているが知識、技術、経験などの差があり勉強会や研修会の参加などあらゆる機会を通じて学び全職員が適切な対応を熟知できるようにしていきたい。
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急救命法（心肺蘇生法）の講習会や訓練を最低年1回行うように心がけているが十分とは言えない。また職員全員が緊急時に落ち着いて応急手当ができるまでの訓練は行っていない。	○	いつ、どんな時でも職員全員が応急手当を行えるように勉強会、講習会を開き知識や技術を習得し、急変や事故の発生を常に意識し、的確に対応できるように全体、または個人的にも学ぶ機会を作っていきたい。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホームの300m範囲内に同グループの病院、施設があり緊急時は避難できるようになっている。また、水害など早い段階で災害の恐れを予想できる時には市内の同法人グループの施設へ避難できるようになっている。また、避難時の持ち出し物品をスタッフルームに確保している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	<p>リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている</p>	<p>利用者一人ひとりの状態の様子観察し、またヒヤリハットに挙げている内容に対し、危険が予想されることについてはきちんと伝えている。無断で外に出られる利用者に対し、玄関など施錠せずに一緒に歩く、また行き先を確認しながら見守りを行っている。その旨については家族に起こり得るリスクについて了解を得ている。</p>	
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>	<p>利用者の健康管理を日常的に行っており、身体状態の変化や異常のサインが見られた時は主治医や医療連携を取っている同グループの訪問看護の職員に相談し必要であればすぐに受診できるよう支援している。また家族にも状態の変化や異常を連絡し必要な事柄は確認を取りながら対応している。受診結果報告書や日々の記録用紙に、その変化やサインを記録に残している。</p>	
74	<p>服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>健康管理は重要なケアとして捉えている。健康を維持するために必要な服薬については医師の指示通りに服薬ができるように支援している。症状の変化についての確認し、往診時に報告するようにしている。利用者には処方される薬は薬品管理係を中心に個別に分けて誤薬がないように支援し、また予備薬、常備薬についても管理している。</p>	
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>	<p>利用者一人ひとりの排便チェックを行い、出来るだけ便薬に頼らないように水分量のチェックや散歩など身体を動かすに留意している。便薬、便秘の原因や及ぼす影響について薬剤師に勉強会を開催してもらい予防と対応について周知できている。</p>	
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>	<p>起床時、就寝時に義歯の手入れ、定期的に洗浄剤につける等、利用者の状態を見て必要な部分を支援し、毎食後にうがいの声かけを行っている。また、機能障害等があり口腔ケアに援助が必要とされる利用者に対しガーゼで口腔内を拭き、清潔を保てるよう支援している。</p>	
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>減塩食でカロリー計算された食事を提供している。食事摂取量を記録し一人ひとりの食事量を把握し、食事量が少ない利用者については原因を探り、食べやすいものや好まれるものを用意したり、また食べやすい大きさにして提供するなど工夫している。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肺炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルを作成し、リスクマネジメント委員会を中心に予防や対策に取り組んでいるが完全にできていないとは言えない。インフルエンザの予防接種については風邪が流行する前に往診時に接種できている。すべての予防対策の一つに手洗い、うがいの徹底を図り、また手洗い場、トイレに設置しているタオルはこまめに取替え、またペーパータオルも使用している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用具、台所回り、冷蔵庫の中などの清掃、また除菌や漂白は夜勤帯を中心に行い、清潔、衛生に留意している。食材については夏場は冷蔵庫や涼しい所で管理している。食事作りの材料については前日に買い物したものを使用し、汁物の具材は畑から直接採ったもの、その日に頂いた野菜などを使用している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先にはイスを用意し、お天気の良い日は日光浴をしながら草花や外の景色を見て会話など楽しめるようになっている。玄関の中に利用者の写真コーナーを設け来訪者に日々の様子が伝わるように工夫している。また、それを見ながら会話が弾んでいる。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングのデッキに腰掛け、お天気の良い日には日光浴を兼ねて季節の花木を見たりしながら、ゆっくりとティータイムを過ごして頂いている。季節の日差いや風や音など季節感など自然を体で感じて頂けるよう室温(空調)に気をつけている。職員の会話のトーンについてもケアの一つと心得大切に考えている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング内や廊下の各場所にソファを設置し気の合う方同士で中庭を眺めながら談話を楽しめるようになっている。玄関先にベンチを置き、天気のいい日は日光浴を兼ねて外の景色を見ながら会話を楽しませている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者それぞれの生活習慣を大切に家族の写真や思い出の品、お位牌など家族の協力を得て馴染みのある家財道具を持ち込んで頂いている。また、一人で部屋で過ごしたい人に対してはさり気なく見守るなどの確な配慮を心がけている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	清掃時は必ず換気しながら行っている。毎朝、起床時などに居室の窓を開け室内のにおいや空気のおどみがないよう配慮している。また、リビングで過ごされている方が少ない時など、状況に応じて換気を行っている。暑さ、寒さを肌で感じ季節感を感じて頂くためにも室内の気温と外気温との差があり過ぎないように気をつけている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室ドア、浴室(脱衣室)、トイレに手すりを設置し安全に利用できるようにしている。洗濯物干しについても低い物干しを用意し残存能力の維持に繋がるよう配慮している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室の表札は自分で選んで頂いたもの、また手芸教室でご自分で作られた表札を使用されるなど個性を活かし、ご自分の居室がきちんと把握できるよう工夫している。また、トイレは馴染みのある漢字で『便所』と表示し場所の間違いや分からない事での混乱を防げるよう工夫している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	畑や花壇もあり水やりや草引きなど中庭を含め季節の花を育てる楽しさや喜び、嬉しさを味わって頂いている。また、居室デッキ部分で家庭菜園や好きな花を育てられたり、洗濯物を干されている。		

( 部分は第三者評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目 (新宅)		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ 毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/> 大いに増えている <input type="radio"/> 少しずつ増えている <input type="radio"/> あまり増えていない <input type="radio"/> 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/> ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

学習療法、アクアスポーツなどの生活リハビリの実施と個々の趣味や得意とすることへの個別ケアの実施(お茶会、塗り絵、菜園など)